



第1回 令和7年度 栗原版デュアルシステム運営委員会

令和7年6月25日(水) 15:00～ 会場：一迫商業高等学校

栗原版デュアルシステム運営委員会設置要綱

(趣 旨)

第1条 この要綱は、文部科学省からの専門高校等における「日本版デュアルシステム」推進事業による指定終了後の平成20年度以降も、宮城県一迫商業高等学校（以下「実施高校」という。）において、「日本版デュアルシステム」（以下「栗原版デュアルシステム」という。）を継続実施することに伴い、「栗原版デュアルシステム」の実施のために設置する運営委員会に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目 的)

第2条 栗原版デュアルシステム運営委員会（以下「運営委員会」という。）は、栗原版デュアルシステムの円滑な実施運営に資することを目的とする。

(所掌事務)

第3条 運営委員会は、次の事務を所掌する。

- 1 栗原版デュアルシステムの運営に関する指導及び助言
- 2 栗原版デュアルシステムの運営に関する評価
- 3 その他栗原版デュアルシステムの運営に関する必要事項

(構 成)

第4条 運営委員会は、実施高校の教育に専門的知識を有する者、学識経験者、受入企業の代表者、栗原地域の産業団体関係者、産業振興及び雇用行政担当者等、別表に掲げる者をもって構成する。

(組 織)

第5条 運営委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 1 委員長及び副委員長は、委員の互選により定める。

(会 議)

第6条 運営委員会は、必要に応じ委員長が招集する。

- 1 委員長は、運営委員会を代表し、会務を主催するとともに、運営委員会の議長となる。
- 2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。
- 3 運営委員会には、必要に応じ、別表に定める者以外の出席を求めることができる。

(事 務 局)

第7条 事業の円滑な実施を図るため、事務局は実施高校に置く。

(補 則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は運営委員会で協議し別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成20年9月25日から施行する。

5 議事

(1) 栗原版デュアルシステム概要 及び 令和6年度第2回栗原版デュアルシステム運営委員会より

(ア) 栗原版デュアルシステム概要

1 概要

栗原版デュアルシステム

地域産業界と連携を図りながら職業人として地域社会に有為な人材を育成することを目的とし、科目「総合実践」の中の「企業実習」「販売実習」「起業家研究」を中心とする取組である。

2005年（平成17年）に文部科学省より研究指定を受けた地域（学校）は20校あり、本校もその中の一つです。宮城県栗原地域で実施するため、「栗原版」デュアルシステムと命名しました。

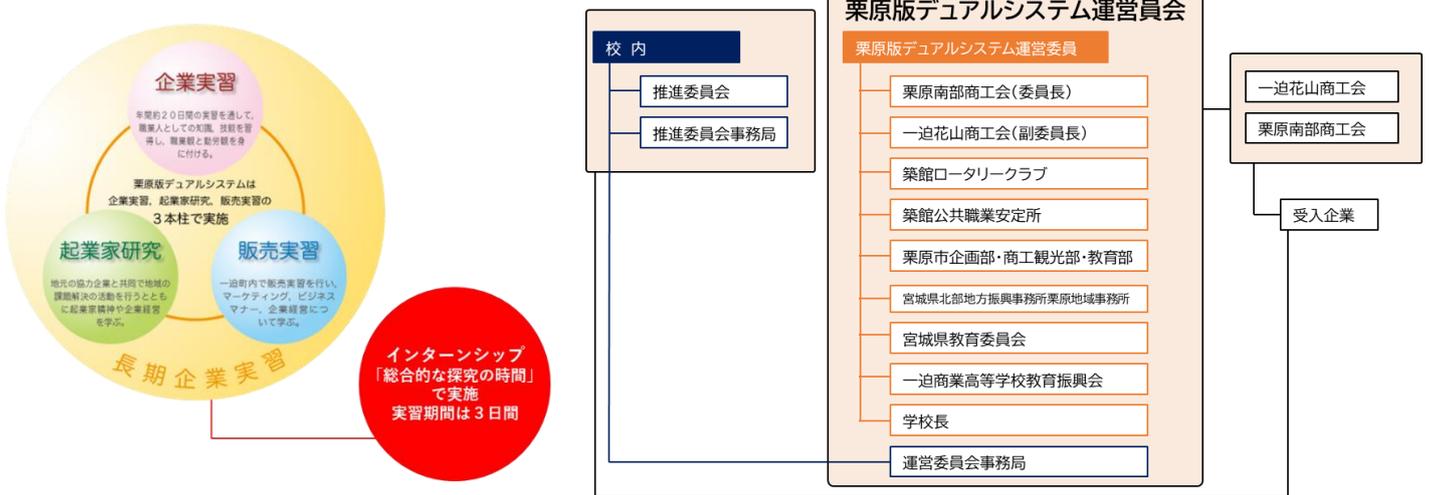
“地域産業界と連携を図りながら共同で将来有為な人材を育成すること”を目的とし活動を行っており、本校は、地域社会や県の協力のもと継続して活動し、平成25年には文部科学大臣表彰を受けました。

2 ねらい

【職業観、勤労観の育成】 【地域の有為な人材の育成】 【地域と連携し、地域活性化の一助とする】

1年次は、先輩方の学習報告会への参加を通じて、職業観の種を植え、2年次でインターンシップの体験を通し、芽吹かせています。この取り組みにより、効果的な職業観や就業観を育成し、地域に貢献できる人づくりを行っています。

3 イメージ図及び組織図



4 具体的取組

| 1 学年（見る・聞く） | |
|--------------------|--------------------------|
| 12月 | インターンシップの校内発表会を見る |
| 1月 | 「栗原版デュアルシステム」の報告会を見る |
| 2月 | 1・2学年拡大社会人講話による講話を聞く |
| 2 学年（実践する・進路を見つける） | |
| 7月 | インターンシップ受入事業所について調べ学習をする |
| 9月 | インターンシップを体験する |
| 12月 | 社会人講話による講話を聞く |
| 12月 | インターンシップについて校内で発表する |
| 1月 | 「栗原版デュアルシステム」の報告会を見る |
| 2月 | 1・2学年拡大社会人講話による講話を聞く |
| 3 学年（就職・進学へ向けて） | |
| 6月～11月 | 「企業実習」「販売実習」「起業家研究」の実習 |
| 7月 | 接客マナー講習会を聞く |
| 8月 | 社会人による面接指導 |
| 9月 | 社会人による講話を聞く |
| 1月 | 「栗原版デュアルシステム」について報告する |

【インターンシップ】
科目「総合的な探究の時間」で実施。
実習期間は3日間

【企業実習】
年間30日間程度の実習を通して、職業人としての知識、技能を習得し、職業観と勤労観を身に付ける。

【販売実習】
一迫地区を中心に販売実習を行い、マーケティング、ビジネスマナー、接客スキルについて学ぶ。

【起業家研究】
地元の協力企業と共同で地域の課題解決の活動を行うとともに起業家精神や企業経営を学ぶ。

(イ) 令和6年度 第2回栗原版デュアルシステム運営委員会より

令和6年度 栗原版デュアルシステム運営委員会（記録）に対する回答

【企業実習】

・「目的意識からねらい、達成」まで一連の活動にしっかりと軸があった。
→7年度は計6名が企業実習を選びました。5月末より本格的に実習が始まり、夏季休業期間前の7月11日までの計18時間を実習確保することができました。6年度と同様に、実習1回ごとのフィードバックや職業観の変容、長期インターンによる生徒の社会性・人間性の成長を促す指導に重点を置いて参ります。

【販売実習】

・年5回の販売実習はすごいと感じた。年5回の計画は大変ではないか。
→年5回のうち、2回は授業としてもともと計画しているもの、残りの3回は外部からの依頼で参加したものです。7年度も無理のない範囲で参加をしていきたいと考えています。
・POP 広告作成セミナーなど講師をお招きし開催しているので、ぜひ一緒に受講してきませんか。
→ぜひ参加させていただきたいです。
・ECサイトの活用はどうか。
→学校のみで運営は難しい模様。大河原商業高等学校では、以前、Webサイトを作成し、NPOを介して地元企業の商品の販売の仲介を行っていたそうです。
・出店の際は売り上げノルマを決めることで活動にメリハリが出るのでどうか。
→売上の金額がいくらになったら利益が出始めるのか（損益分岐点）を意識し活動を行います。

【起業家研究】ふるさと納税返礼班

・ふるさと納税については、栗原市は7年度1億円いかない予想である。
→市議会だよりでも確認させていただきました。現在起業家研究では、栗原市の姉妹都市である台湾南投市のチョコレートを使用した米ていらの商品化に向けて、もちっ小屋でん様に協力いただき取り組んでいます。この活動が、栗原市のふるさと納税に新たなきっかけを与えるものになることを目標に取り組みます。
・情報集めに注力し、過去の活動なども振り返ってほしい。
→7年度は、栗原市で活躍する外部講師から栗原市の現状・経験に基づいた講話をいただく機会を設定すること、イベント等で栗原市の皆さんからの声に直接触れる活動を実施し、栗原市に求められる商品の開発を行っていくことを目標に活動を行いたいと考えています。

事務局より

- ・7年度も運営委員会は（6月・1月の）2回実施
- ・運営委員会資料を運営委員会開催の1～2週間前には送付致します。



(2) 令和7年度栗版デュアルシステム実施計画と進行状況について

令和7年度 第2学年 科目〔総合的な探究の時間〕「インターンシップ」 活動計画

実施科目 2学年 「総合的な探究の時間」 1単位

対象生徒 2学年 37名

実施期間 令和7年9月2日(火) から 令和7年9月4日(木) ※インターンシップ実施期間

目的

- (1) 人間としての在り方、生き方について生徒が自ら考え自覚を深めて自己実現を図る資質や能力を育てる。
- (2) 職場における、実地的な知識や技術・技能に触れることにより、学習意欲を喚起し、主体的な職業選択能力や高い職業意識を育成する。
- (3) 勤労の尊さや喜び、楽しさや厳しさを学び、社会における自己の役割や責任・自覚を促す。
- (4) 総合的な探究の時間で身に付けたことを他の教科でも活かし、自己の能力を高める。

1 今年度の活動テーマ（上記「目的」を踏まえ）

探究活動

「地域や社会への関心を高め、自ら課題を見つけ、情報収集・分析・発表を通じて課題解決に向けた力を養う。」

インターンシップ活動

「地域や仕事への理解を深め、職業体験を通じて課題を見つけ、地域と関わりながら実践的な課題解決力を養う。」

2 今年度の活動について

| 月 | 目的 | 主な活動内容 |
|-----|-----------------------------------|--|
| 4月 | 探究活動の基礎を身につけ、課題設定から情報収集までの力を養う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション「探究とは」 ・探究の基礎① 課題の設定 ・探究の基礎② 情報収集（インターンシップ調査） |
| 5月 | 探究活動の基礎を身につけ、情報の整理・分析から発表までの力を養う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・探究の基礎③ 整理・分析 ・探究の基礎④ まとめ・発表 ・探究の技法① ネット検索 ・探究の技法② 調査（インターンシップ準備） |
| 6月 | 探究活動に必要な実地調査やまとめ方の技法を身につける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・探究の技法③ フィールドワーク ・探究の技法④ まとめ技法 |
| 7月 | 地域探究の意義を理解し、地域課題と自分の関心を結びつける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・分野別進路ガイダンス ・地域探究とは ・地域探究の課題集め ・地域探究とインターンシップ |
| 8月 | インターンシップ実施に向けた準備と地域との関係づくりを進める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・アポイントをとり、事業所と事前打ち合わせ ・フィールドワーク① インターンシップに向けて講演 基本的な姿勢について |
| 9月 | インターンシップを通じて地域や仕事を理解し、体験を振り返る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・9/2～9/4 インターンシップ ・フィールドワーク② 振り返り ・フィールドワーク③ お礼状作成 ・フィールドワーク④ まとめ |
| 10月 | インターンシップで得た経験をもとに地域課題を設定し探究を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域探究ゼミ プレ 課題の設定 ・地域探究ゼミ 分野別ゼミ（12時間） |
| 11月 | 地域探究ゼミで課題解決に向けた調査・実践を進める。 | |
| 12月 | 地域探究ゼミで探究成果のまとめ・発表準備を進める。 | |
| 1月 | 地域や校内で探究成果を発表し、他者と共有する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・探究学習発表会 ・まちづくり成果発表会 ・デュアルシステム学習報告会 |
| 2月 | 探究活動を通じて得た学びを進路選択につなげる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・進路別ガイダンス |
| 3月 | 1年間の探究活動を振り返り、成長や学びを次年度につなげる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・探究の1年間の振り返り |

令和7年度 第3学年 科目〔総合実践〕「企業実習」班 活動計画

実施科目 3学年 「総合実践」4単位
 対象生徒 3学年 6名
 実施期間 令和7年4月13日 から 令和8年1月28日 まで (1回の実習時間は2～3時間程度)

目的

- (1) 栗原地域の特性を踏まえ、地域産業と連携し、職業についての知識や技能を身に付ける。
- (2) 地域産業の担い手となる将来有能な人材の育成を目指して現場での実習を実施し、望ましい職業観や勤労観の醸成を図る。

1 今年度の活動テーマ（上記「目的」を踏まえ）

「実体験を通じて未来を描く、進路直結の企業実習」

- ①進路を見据え、自ら学び取る力を育成する。
- ②職場体験を通じた実務力・コミュニケーション力を育成する。
- ③働くことへの理解と主体的な職業観を育成する。

2 実習日および年間計画（予定）

| 回 | 月 日 | 回 | 月 日 | 回 | 月 日 | 回 | 月 日 | 回 | 月 日 |
|---|--------|---|--------|---|--------|---|--------|---|--------|
| ① | 5月27日 | ② | 5月30日 | ③ | 6月6日 | ④ | 6月10日 | ⑤ | 6月13日 |
| ⑥ | 6月24日 | ⑦ | 6月27日 | ⑧ | 7月1日 | ⑨ | 7月11日 | ⑩ | 8月22日 |
| ⑪ | 9月2日 | ⑫ | 9月5日 | ⑬ | 9月9日 | ⑭ | 9月26日 | ⑮ | 9月30日 |
| ⑯ | 10月3日 | ⑰ | 10月7日 | ⑱ | 10月10日 | ⑲ | 10月14日 | ⑳ | 10月24日 |
| ㉑ | 10月28日 | ㉒ | 10月31日 | ㉓ | 11月4日 | ㉔ | 11月7日 | ㉕ | 11月11日 |
| ㉖ | 11月14日 | ㉗ | 11月18日 | ㉘ | 11月21日 | ㉙ | 11月25日 | ㉚ | 12月5日 |

| 月 | 回 | 目的 | 主な活動内容 |
|------------------|------|-----------------------------|---|
| 4月 | 第1回 | 企業実習の目的と流れを理解し、心構えを持つ。 | オリエンテーション・企業実習の趣旨説明 ・企業実習の目的・スケジュール確認 ・企業実習先一覧の提示 |
| | 第2回 | 自己の強み・特性を知り、自分に合う企業・仕事を考える。 | 自己理解ワーク①「性格診断(16Personalities 活用)」 ・診断結果の共有・振り返り |
| | 第3回 | 自己分析を深め、志望動機の土台をつくる。 | 自己理解ワーク②「価値観・成功体験の整理」 ・自分の価値観や興味関心を整理 |
| | 第4回 | 配属予定企業の理解を深める。 | 企業研究シート作成(企業調べ) ・業種・事業内容・地域貢献・特色の調査 |
| | 第5回 | 実習目的や目標を明確にする。 | 実習希望理由ワークシート記入(STEP1～STEP4) ・「何をしたいか」「なぜその企業か」整理 |
| | 第6回 | 企業担当者に自分を伝える書類を整える。 | 自己紹介書(企業提出用)の作成・仕上げ ・「企業実習 生徒紹介書」完成 |
| 5月 | 第7回 | ビジネスマナーの基本を習得する。 | 電話対応マナー講習 ・「電話対応の基本マナーチェックリスト」活用 |
| | 第8回 | 情報を正確に聴き取り・記録する力を養う。 | 電話メモの取り方練習① ・短い原稿のメモ練習(5パターン) |
| | 第9回 | 複雑な内容の要点を整理する力を養う。 | 電話メモの取り方練習② ・長め原稿のメモ練習(3パターン) |
| | 第10回 | 実習開始前に訪問マナーを身に付ける。 | 企業訪問マナー講習 ・あいさつ・服装・名刺の受け方等 |
| | 第11回 | 企業訪問時の対応力を高める。 | 企業担当者との事前打合せ準備 ・自己紹介練習・質問事項整理 |
| | 第12回 | 企業担当者との関係性を築き、実習内容を明確化する。 | 企業担当者との事前打合せ(自己紹介書持参) ・企業訪問・顔合わせ・最終確認 |
| 6月～ 12月 1月 | 約30回 | 企業実習 | 報告資料作成・発表会 |

3 令和7年度受入事業所 全6事業所(敬称略・順不同) ※現在確定の事業所のみ掲載

| 事業所名 | 事業所名 |
|--------------|--------------------------|
| 有限会社 もちっ小屋でん | 栗駒保育所 |
| 南部屋印刷株式会社 | 社会福祉法人宮城福祉会 特別養護老人ホーム 山王 |
| 医療法人社団玄成会達内科 | ケーズデンキ 築館店 |

令和7年度 第3学年 科目〔総合実践〕「販売実習」班 活動計画

実施科目 3学年 「総合実践」 4単位

対象生徒 3学年 16名

実施期間 令和7年4月13日 から 令和8年1月28日 まで (1回の実習時間は2～3時間程度)

目的

- (1) マーケティングや接客マナー等について「実際に商品を仕入れ販売をして利益計算を行う作業」とおして、実務として体験させ、自ら考え行動する能力と態度を養う。
- (2) さらに異世代とのコミュニケーションをおして勤労観や職業観を育成する。

1 今年度の活動テーマ（上記「目的」を踏まえ）

「商品を介して支え合う、つながりの販売実習」

- ①実践的なマーケティング力（地域や顧客のニーズをとらえ、課題を発見し企画する力）を育成する。
- ②主体的なコミュニケーション力を育成する。
- ③社会とのつながりを意識した課題解決力を育成する。

2 今年度の活動について

| 月 | 目的 | 主な活動内容 | その他 |
|-----|--|--|--|
| 4月 | 活動の目的理解と販売実習に必要な基礎知識を習得する。 | オリエンテーション コミュニケーション基礎学習／売れる商品とは 商品コンセプトと販売計画 | |
| 5月 | 市場調査や仕入業務を通して、実務に即した知識や消費者で考える思考力を身に付ける。 | 会社組織学習 一泊フィールドワーク／アンケート作成・集計 仕入先選定と電話交渉 | |
| 6月 | 販売促進資料の作成の技法や商品の注文から販売に至るまでの一連の流れを身に付ける。 | 仕入計画・会計書類作成／POP・広告・チラシ作成 商品検品／出店準備 販売実習① | |
| 7月 | 実習を通して学んだことや学んだ知識を生かして実習を行ったことによる感想を振り返ることで、知識の深化を図る。 | 販売実習振り返り 夏休み計画確認 | 年間を通し、「岩手県大船渡森林火災復興支援」の一助として販売実習を行う。 大船渡を中心とした岩手県内の企業の商品を仕入れ、チャリティ活動を実施する。実習で得られた利益は大船渡市に寄付をする予定である。 *年度内での追加・変更あり |
| 8月 | 5月とは異なる市場の調査やそれに必要な一連の作業を通して思考力を身に付ける。 | 夏休み振り返り 販売実習計画・組織再編 地域市場調査／アンケート実施 | |
| 9月 | アンケートの集計やそれをもとにした販売計画を策定・発表などの作業を通して判断力・表現力を身に付ける。 | アンケート集計・販売計画作成 商品選定・コンセプト決定 仕入先選定・交渉／仕入計画・会計書類作成 | |
| 10月 | 販売促進資料の作成などの作業を通して思考力や表現力を身に付ける。 | POP・広告・チラシ作成 商品検品／出店準備 | |
| 11月 | 販売実習を行い、振り返りやお礼状を作成する一連の流れを通して、つながりを持つことの大切さやビジネスマナーの大切さについて考察させる。 | 販売実習② 販売実習振り返り／お礼状作成 実習比較・振り返り／年間振り返り | |
| 12月 | 寄付先を考え実際に行うまでの一連の社会貢献活動を通して、豊かな人間性や勤労観を醸成する。 | 寄付先検討 報告レポート作成／発表スライド作成 利益寄付 | |
| 1月 | 一年間の振り返りを通して学んだことを整理するとともに、報告会に臨む一連の学習を通してプレゼンテーションの技法を身に付ける。 | 発表スライド作成 発表練習 学習報告会振り返り | |

3 出店イベント

| 月 日 | 内容 |
|----------|-----------------------|
| 6月27日(金) | 販売実習①(場所:あやめの里) |
| 11月7日(金) | 販売実習②(場所:スーパーアークス築館店) |

※外部からの参加依頼に応じて随時出店

過去出店歴: (6月) 青年会議所宮城県大会 (8月) 栗原市民まつり(手伝い)
(10月上旬) いちはさま新米まつり (12月上旬) 栗原市青年文化祭

令和7年度 第3学年 科目〔総合実践〕「起業家研究」班 活動計画

実施科目 3学年 「総合実践」 4単位

対象生徒 3学年 6名

実施期間 令和7年4月13日 から 令和8年1月28日 まで

目的

- (1) 産業界から求められる人材の育成を図る。
 集団で課題を解決するなど、コミュニケーション能力の向上に努める。
- (2) 地域社会との関わりを持ち、学校から社会への円滑な移行を目指す。
 社会との関わりの中で、生徒の自己有用感を高める。社会で自己を発揮できる自信を身に付けさせる。
- (3) 学習したことを地域社会に還元し、生徒の学習意欲の向上につなげる。
 学校で学んだことを地域社会で役立て、社会から学んだことを、校内の学習活動に生かす。

1 今年度の活動テーマ（上記「目的」を踏まえ）

「地域資源を活かした商品開発と魅力発信を通じ、地域への愛着と実践力を育む」

- ①地域課題を自分ごととして捉え探究する力を育成する。
- ②商品化・広報活動を通じた実践力・表現力を育成する。
- ③地域貢献を通じた自己有用感と地域愛を育成する。

2 今年度の活動について

| 月 | 目的 | 主な活動内容 |
|-----|------------------------------------|--|
| 4月 | 地域の現状を理解し、地域課題を自分事として捉える力を身に付ける。 | ①地域企業の現状を理解するため、地域を探索する（課題・活用できるもの）。 ②地域企業について調べ、地域商品の特徴・魅力・課題について検討する。 ③地域をよりよくするビジネスプランを考案し、発表する。 |
| 5月 | 地域の探究活動を通して、地域の魅力や可能性を見いだす力を身に付ける。 | ①新商品の商品化に必要な要素（ストーリー性・魅力）を検討する。 ②地域から講師を招き、地域活性化へのアプローチについて講話いただき、商品の魅力発信の方法を学ぶ。 ③地域の魅力を収集し、新商品に込める要素について整理を開始する（もちっ小屋でんとの協力開始）。 |
| 6月 | 地域の探究活動を通して、他者に発信する想像力・表現力を身に付ける。 | ①新商品の商品化に必要な要素（ストーリー性・魅力）を検討する。 ②地域から講師を招き、地域活性化へのアプローチについて講話いただき、商品の魅力発信の方法を学ぶ。 ③地域の魅力を集約したパッケージデザイン案・商品案の第1回目を作成する。 |
| 7月 | イベントでの実践を通して、課題や改善点を発見する力を身に付ける。 | ①イベントで実施する調査の内容を、今後の活動の見通しをもち検討する。 ②イベントで実際に消費者に触れ、消費者の声を実際に聞く体験をする。 ③イベントでの調査結果について振り返りまとめ、今後の活動に必要な要素を整理する。 |
| 8月 | 改善点を活かした商品案を創造する思考力を身に付ける。 | ①前期活動を振り返り、今後の活動についてまとめ発表を行う。 ②改善点から商品のブラッシュアップ案を作成する（デザイン、味、ストーリー、PR方法など）。 ③地域から講師を招き、提案内容・振り返り内容について発表し内容のブラッシュアップを図る。 ④今後の活動について自ら検討し、必要な外部機関・活動を思考する。 |
| 9月 | 最終イベントに向けて、商品案を粘り強く検討する力を身に付ける。 | ①前期活動を振り返り、今後の活動についてまとめ発表を行う。 ②最終イベントで実施する内容を、今後の活動への見通しをもち検討する。 |
| 10月 | イベントでの実践を通して、課題や改善点を発見する力を身に付ける。 | ①改良版の試食会・販売会を実施する。 ②最終イベントでの意見を元に、商品案の最終修正を行う。 |
| 11月 | 新商品の魅力をより発信するための企画力・表現力を身につける。 | ①新商品発売会に向けて、外部講師の協力等を通して広報活動を実施する。 ②これまでの活動を振り返りポスターを作成する（振り返り資料・説明資料として掲示）。 |
| 12月 | 新商品の活動を振り返り、地域への愛着を感じさせる。 | ①新商品販売会を実施する。 ②新商品開発で学んだ内容の振り返り、デュアル発表資料作成開始。 ③活動に協力いただいた外部講師への挨拶。 |
| 1月 | | 報告・発表 |

○活動の様子を学校HPまたはSNSを活用し、発信することにより地域全体で新商品を作っていく体制を整えたい。

(例) 打ち合わせの様子・イベントに向けてのチラシ・イベントの様子

イベントを受けての改善案と改善前の案・ふるさと納税返礼品のブラッシュアップ等

6 報告

令和6年度進路内定先(令和7年3月31日現在)

| 在籍数(33名) | 希望者数 | 内定者数 | 受験中 | 未決定 | 決定率 |
|-----------|------|------|-----|-----|--------|
| 就職 | 20 | 20 | 0 | 0 | 100.0% |
| 進学 -大学 | 2 | 2 | 0 | 0 | 100.0% |
| -短大 | 1 | 1 | 0 | 0 | 100.0% |
| -専門(専修)学校 | 10 | 10 | 0 | 0 | 100.0% |
| 合計 | 33 | 33 | 0 | 0 | 100.0% |

●就職(20名)

一栗原市内(9名)

HOYA ペンタックスライフケア事業部宮城事務所(2) 細倉金属鋳業株式会社(1)
株式会社くりはら葬儀社(1) ジオマテック株式会社金成工場(1)
協業組合アクアテック栗原(1) 豊田合成東日本株式会社(1)
栗駒高原森林組合(1) 社会福祉法人迫川会(1)

一県内(6名)

トヨタ自動車東日本株式会社(1) 株式会社登米村田製作所(1)
アルプスアルパイン株式会社(1) 東北送配電サービス株式会社(1)
社会福祉法人宮城福祉会(1) 株式会社 JR 東日本テクノサービス(1)

一県外(3名)

株式会社 U-NEXT HOLDING(2) 第一貨物株式会社(1)

一公務員(2名)

自衛隊一般曹候補生(1) 自衛官候補生(1)

一縁故・自営(0名)

●進学(13名)

一大学(2名)

東北学院大学(1) 仙台青葉学院大学(1)

一短大(1名)

聖和学園短期大学(1)

一公共職業能力開発施設等(0名)

一専門(専修)学校(10名)

東京 IT プログラミング&会計専門学校(2) 東北電子専門学校(1)
仙台大原簿記情報公務員専門学校(1) 東京法律公務員専門学校(1)
一関医師会附属一関看護専門学校(1) 仙台ビューティーアート専門学校(1)
東北ヘアモード学院(1) 仙台こども専門学校(1)
仙台スクールオブミュージック&ダンス専門学校(1)

令和7年度実施 教育課程表

| 宮城県築館高等学校 一迫商業キャンパス | | 宮城県一迫商業高等学校 | | | | | | | |
|------------------------|----------------------|----------------------|---------------------|----------------|--------|-------|------|-------------------|-------------------|
| 第1学年 | | 第2学年 | | 第3学年 | | | | | |
| 情報ビジネス科 | | 流通経済科 | 情報処理科 | 流通経済科 | | 情報処理科 | | | |
| 1 | 現代の国語 (2) | 国語表現 (3) | | 論理国語 (4) | | | | | |
| 2 | 言語文化 (2) | | | | | | | | |
| 3 | 地理総合 (2) | 公共 (2) | | 歴史総合 (2) | | | | | |
| 4 | 数学 I (2) | | | | | | | | |
| 5 | 数学 I (3) | 化学基礎 (2) | | 数学A (3) | | | | | |
| 6 | 科学と人間生活 (2) | 体育 (2) | | | | | | | |
| 7 | 体育 (2) | 保健(1) | | 体育 (3) | | | | | |
| 8 | 保健(1) | 英語コミュニケーション I (2) | | | | | | | |
| 9 | 英語コミュニケーション I (3) | 家庭基礎 (2) | | 論理・表現 I (2) | | | | | |
| 10 | ビジネス基礎 (2) | マーケティング (3) | 財務会計 I (4) | | | | | 課題研究 (3) | |
| 11 | 簿記 (3) | 商品開発と 流通 (3) | | | | | | | |
| 12 | 情報処理 (4) | 財務会計 I (3) | ソフトウェア 活用 (5) | 流通経済科 | | 情報処理科 | | | |
| 13 | プログラミング (2) | ソフトウェア 活用 (3) | | | | | | プログラミング (3) | ビジネス法規 (3) |
| 14 | 総合的な探究の時間(1) | 総合的な探究の時間(1) | | 選択 (3) | 政治経済 | 生物基礎 | 原価計算 | プログラミング 【流経のみ】 | マーケティング 【情処のみ】 |
| 15 | LHR(1) | LHR(1) | | | LHR(1) | | | | |

☆1年情報処理で「情報 I (2)」を代替

☆3年課題研究で「総合的な探究の時間(2)」を代替